安全データシート（ＳＤＳ）

1.化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　　同　上
改訂日　　2025/03/18
SDS整理番号　　05160350

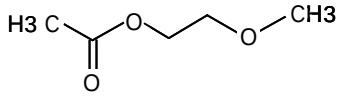
製品等のコード　：　0516-0350、0515-9132

製品等の名称　　：　酢酸メチルセロソルブ（酢酸ｴﾁﾚﾝｸﾞﾘｺｰﾙﾓﾉﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ）

推奨用途　　：　試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
電子材料洗浄用溶剤、印刷インキ用溶剤、塗料用溶剤、接着剤溶剤、
ブレーキ液 など

使用上の制限　　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2.危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
- 引火性液体　：　区分3
- 自然発火性液体　：　区分に該当しない
- 金属腐食性化学品　：　区分に該当しない

健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）　：　区分に該当しない　〔区分5(国連GHS分類)〕
- 急性毒性（吸入：蒸気）　：　区分3
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分2B
- 生殖毒性　：　区分1B
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分1（腎臓）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　区分2（中枢神経系）

環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性)　：　区分3
- 水生環境有害性 長期(慢性)　：　区分2

注意喚起語：　危険

危険有害性情報
- 引火性液体及び蒸気
- 飲み込むと有害のおそれ（経口）
- 吸入すると有毒（蒸気）
- 眼刺激
- 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- 腎臓の障害
- 長期又は反復暴露による中枢神経系の障害のおそれ
- 水生生物に有害
- 長期的影響により水生生物に毒性

注意書き
【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
吸入した場合：直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
　医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
　皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には
　外して洗うこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察、手当を受けること。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。
漏出物を回収すること。
【保管】
日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、
　　現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別		： 化学物質
化学名		： 酢酸メチルセロソルブ （別名）酢酸エチレングリコールモノメチルエーテル、 酢酸2-メトキシエチル、1-アセトキシ-2-メトキシエタン メチルセロソルブアセテート、 2ーメトキシエチルアセテート、 2ーメトキシエチル＝アセテート （英名）Methyl cellosolve acetate、 Ethylene glycol methyl ether acetate、 Acetic acid 2-methoxyethyl、 Acetic acid 2-methoxyethyl ester、 1-Acetoxy-2-methoxy ethane、 2-Methoxyethyl acetate（EC名称）、 Ethanol, 2-methoxy-, 1-acetate（TSCA名称）
成分および含有量		： 酢酸メチルセロソルブ、　98.0% 以上
化学式、構造式		： C5H1003、　CH3OCH2CH2COOCH3、　構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量		： 118.13
官報公示整理番号	化審法	： (2)-740
	安衛法	： 公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.		： 110-49-6
EC　No.		： 203-772-9
TSCA		： TSCA名称；Ethanol, 2-methoxy-, 1-acetate SNUR名称；2-Methoxyethanol acetate 40 CFR part 721 Subpart E；10001 TSCA6条；ー
危険有害物質		： 酢酸メチルセロソルブ

4. 応急措置

吸入した場合	： 直ちに、医師に連絡する。 直ちに被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。 速やかに医師の診断、治療を受ける。 気分が悪い時は、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	： 汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 直ちに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。

皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。
汚染された作業衣は作業場から出さない。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。

目に入った場合　：　直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。
まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。
次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、洗浄を続ける。
眼の洗浄が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合　：　口をすすぎ、うがいをする。
コップ数杯の牛乳を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。
けいれんや意識混濁がある時又は意識がもうろうとしている時には吐かせてはいけない（窒息させたり、吐いた物が気管に入って肺炎になることがあるため）。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないよう、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状：
吸入　：めまい、嗜眠、頭痛
皮膚に付着：吸収される可能性あり。
皮膚の乾燥。
他の症状については「吸入」参照
眼に付着　：発赤
経口摂取　：腹痛、吐き気、嘔吐、脱力感、意識喪失。
他の症状については「吸入」参照。

医師に対する特別注意事項：必要に応じて有機溶剤用の防毒マスクを着用する。
火気に注意する。
安静と症状の医学的な経過観察が必要。

5．火災時の措置

適切な消火剤　：　本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。
粉末、二酸化炭素、泡（耐アルコール泡）、水噴霧
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。

使ってはならない消火剤：　棒状放水（本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。）

特有の危険有害性　：　引火性が高い。
極めて燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。
引火点(44℃)以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。
加熱により容器が爆発するおそれがある。
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法　：　火元への燃焼源を遮断する。
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
大火災の場合、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。これが不可能な場合には、その場所から避難し、燃焼させておく。

消火を行う者の保護　：　消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6．漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
：　漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。
皮膚、眼など身体とのあらゆる接触を避ける。
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。

環境に対する注意事項　：　河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。

		油又は有害液体物質による海洋の汚染の防止のため、海上で薬剤を使用する場合は、国土交通省令・環境省令の規定に適合すること。
回収、中和	：	乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。
封じ込め及び浄化の方法・機材	：	危険でなければ漏れを止める。 漏洩エリア内で稼動させる設備・機器類は接地する。 蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。
二次災害の防止策	：	事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 周辺の発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	：	裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。 引火点(44℃)以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が必要で、危険物貯蔵所に保管する。 指定数量の1/5以上、1未満（少量危険物）の場合も、少量危険物貯蔵所に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。 炎、火花または高温体との接触を避ける。 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
局所排気・全体換気	：	防爆型の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
安全取扱い注意事項	：	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。 眼に入れない。 接触、吸入又は飲み込まない。
接触回避	：	炎、火花または高温体との接触を避ける。

保管

技術的対策	：	保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	：	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管する。 日光や高温多湿を避けて保管する。 容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管する。 貯蔵する所には、「火気厳禁」の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	：	強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩
容器包装材料	：	ガラスなど。 アクリル樹脂など一部のプラスチック、ゴムを侵す。

＜参考＞　室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【 ◎:良好　○:やや良好(条件による)　△:やや不良　　×:不良　　ー:データなし 】

スチレンゴム○　クロロプレンゴム(ネオプレン)○　ニトリルゴム×　ブチルゴム◎
天然ゴム○　シリコーンゴム○　フッ素ゴム(バイトン、ダイエル)×　テフロン◎

軟鋼－　ステンレス（SUS304－　SUS316－）　チタン－　アルミニウム－　銅◎
軟質塩ビ×　硬質塩ビ×　ポリスチレン－　ＡＢＳ－　ポリエチレン－　ポリプロピレン－
ナイロン○　アセタール樹脂－　アクリル樹脂×　ポリカーボネート△　ガラス◎

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度　：　未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会　0.1ppm　0.48mg/m3　経皮吸収性あり
ACGIH　TLV-TWA　0.1ppm　0.5mg/m3　経皮吸収性あり
設備対策　：　防爆の電気・照明機器を使用する。
作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。
静電気放電に対する予防措置を講ずる(アース等の使用)。
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
保護具
呼吸器の保護具　：　呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具　：　保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具　：　保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具：　長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策　：　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9.物理的及び化学的性質

物理状態
性状　：　液体
色　：　無色澄明
臭い　：　芳香臭
pH　：　データなし
融点　：　-65℃
凝固点　：　データなし
沸点　：　145℃
引火点　：　44℃（密閉式）
可燃性　：　引火性
爆発範囲　：　下限 1.5vol%、　上限 12.3vol%
蒸気圧　：　0.27 kPa（20℃）、 0.67 kPa（25℃）
相対ガス密度（空気 = 1）：　4.1
20℃での蒸気/空気混合
気体の相対密度(空気＝１)：　1.01
密度又は相対密度　：　データなし
比重　：　1.005～1.010（20/20℃）
溶解度　：　水と任意の割合で混和。
エタノール、ジエチルエーテル、アセトンに自由に混和。
オクタノール/水分配係数　：　log Pow = 0.12
発火点　：　380℃
分解温度　：　データなし
粘度　：　1.08 mPa・s（＝1.08ｃP、20℃）
動粘度　：　データなし
粒子特性　：　データなし

GHS分類
引火性液体　：　引火点44℃［密閉式］（IMDG（2010））は ≧ 23℃ かつ ≦60℃であることから、区分３とした。
引火性液体および蒸気（区分3）
自然発火性液体　：　発火点は380℃であり（ICSC（2003））、常温で発火しないと考えられることから、区分に該当しないとした。
金属腐食性化学品　：　ステンレス鋼、鋼およびアルミニウムは容器として耐久性がある(ホンメル(1996)）との記述から、区分に該当しないとした。

10.安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）
：　通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性　：　強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩と反応する。
避けるべき条件　：　高温、日光、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質　：　強酸化剤、強塩基、強酸、硝酸塩

危険有害な分解生成物：　燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、刺激性のヒュームなどを発生する。

11.有害性情報

急性毒性　：　経口　ラット　LD50=4,300 mg/kg（NITE初期リスク評価書 101（2008））
区分５とした（国連GHS分類）。
ただし、分類JISでは区分に該当しないである。
飲み込むと有害のおそれ（経口）（区分5）
経皮　ウサギ　LD50=5600 mg/kg（ACGIH（2006））
区分に該当しない。
吸入（蒸気）　ラット　LD50＝700 ppm/4h（HSDB（2009））
吸入すると有毒（蒸気）（区分3）
吸入（ミスト）区分に該当しない。
ラットに34.4 mg/Lを4時間ばく露して6匹中2匹が死亡（オランダの評価文書（2011）、List2相当）との結果からLC50値は5 mg/kgを超えるとみなされ、区分に該当しないとした。

皮膚腐食性/刺激性　：　区分に該当しない。
ウサギの皮膚に0.5 mLを4時間の閉塞適用した試験（EEC試験法）で刺激性はみられなかったことから、区分に該当しないとした。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：　ウサギの眼に適用した試験で、液体の本物質は軽度の刺激性（mildly irritating）との結果（ACGIH（2006））に基づき、区分２Ｂとした。
眼刺激（区分2B）

呼吸器感作性　：　分類できない。

皮膚感作性　：　分類できない。

生殖細胞変異原性　：　区分に該当しない。
チャイニーズハムスターに腹腔内投与による骨髄を用いた小核試験（体細胞in vivo変異原性試験）において、陰性の結果（ECETOC TR95（2005））であった。

発がん性　：　分類できない。
知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。

生殖毒性　：　マウスの妊娠6～13日に経口投与した発生毒性試験において、親動物に影響が見られなかった用量（1225 mg/kg/day）、即ち一般毒性が示されなかった用量で、全ての母動物の子宮内で吸収胚がみられたとの報告（NITE初期リスク評価書 101（2008））に基づき区分1Bとした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれ（区分1B）

特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　ウサギおよびネコに450 ppmの蒸気を8時間の吸入ばく露（換算値：2.17 mg/L/8h = 3.01 mg/L/4h）により腎障害で死亡した（NITE初期リスク評価書 101（2008））との報告に加え、ウサギに507 mg/kgまたは1007 mg/kgを3日間経口投与で全例が腎障害を呈し、尿中にアルブミンと円柱が見られた（PATTY（5th, 2001））との報告がある。ウサギに3日間経口投与試験では用量的におおよそガイダンス値区分2の範囲にあるが、吸入ばく露の濃度がガイダンス値区分1に相当することから、区分1（腎臓）とした。
腎臓の障害（区分1）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　ラットに1244 mg/m3/6hを2週間の吸入ばく露（90日換算値：0.191 mg/L:〈蒸気〉）により後肢運動機能の部分的喪失を起こし、この後肢麻痺は神経膠細胞の毒性を伴い、ばく露終了後2週間での回復は不完全で高用量の動物では僅かに麻痺が残った（オランダの評価文書（2011））と報告され、かつ本物質は中枢神経毒性有するエチレングリコールモノメチルエーテル（EGME）に体内で急速に分解することから、EGMEと同様の毒性を示すものと考えられた（ECETOC TR95（2005））。ラットの試験は、ガイダンス値から判断すると区分1相当であるがList 2のデータであって、判定基準1b3）（OECD TGおよびGLP）を満たさないため、ガイダンスにしたがって、区分2（中枢神経系）とした。
長期又は反復ばく露による中枢神経系の障害のおそれ（区分2）

誤えん有害性　：　分類できない。

12.環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性)：　魚類（インランドシルバーサイド）96時間LC50 = 40 mg/L
（NITE初期リスク評価書, 2008）

水生生物に有害（区分3）
水生環境有害性 長期(慢性)： 急速分解性があり（2週間でのBODによる分解度：95%（既存点検，2002））、甲殻類（ネコゼミジンコ）の7日間EC10 = 0.06 mg/L（NITE初期リスク評価書，2008））であることから、区分2とした。
長期的影響により水生生物に毒性（区分2）

残留性・分解性　：　良分解性。BOD分解度＝95%
生物蓄積性　：　低濃縮性。Log Kow＝0.12
土壌中の移動性　：　データなし
オゾン層への有害性　：　本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物　：　関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）①燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。
②活性汚泥処理法
低濃度の排水は活性汚泥処理装置で処理する。

汚染容器及び包装　：　内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14.輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号　：　129

国際規制
海上規制情報（IMDGコード/IMOの規定に従う）
UN No.　：　1189
Proper Shipping Name：　ETHYLENE GLYCOL MONOMETHYL ETHER ACETATE
Class　：　3 （引火性液体）
Sub risk　：　－
Packing Group　：　III
Marine Pollutant　：　Yes（該当）
Limited Quantity　：　5L
航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）
UN No.　：　1189
Proper Shipping Name：　Ethylene glycol monomethyl ether acetate
Class　：　3
Sub risk　：　－
Packing Group　：　III
国内規制
陸上規制情報（消防法、道路法の規定に従う）
海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）
国連番号　：　1189
品名　：　エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート
クラス　：　3
副次危険　：　－
容器等級　：　III
海洋汚染物質　：　該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類　：　Y（エチレングリコールモノメチルエーテルアセタート）
少量危険物許容量　：　5L
航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）
国連番号　：　1189

品名　：　エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート
クラス　：　3
副次危険　：　－
等級　：　III
少量輸送許容物件
許容量　：　10L
特別の安全対策　：　危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。
危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。
移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

15.適用法令

労働安全衛生法　：　名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号　第81号「エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート」、対象重量%は≧0.3）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号　第81号「エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート」、対象重量%は≧0.1 ）
（令別表第９）
（注）令和7年4月1日以降、政令番号：規則別表第2の第271号に変更

危険物・引火性の物「引火点が三〇度以上六五度未満の物」
（施行令別表第１第４号）
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質
・皮膚吸収性有害物質「エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、対象重量%は≧0.3」
（安衛則第594条の2）
化審法　：　旧第２種監視化学物質 No.1041（官報公示日：2010/04/01）
化学物質排出管理促進法(PRTR法)
：　・種　　別　「第1種指定化学物質」
・政令番号　「1-160」
・管理番号　「135」
・政令名称　「酢酸２－メトキシエチル 」
毒劇物取締法　：　非該当
消防法　：　危険物第４類引火性液体、第二石油類 水溶性　指定数量2000L
危険等級Ⅲ　（法第２条第７項危険物別表第１）
船舶安全法　：　引火性液体類（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法　：　引火性液体（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）
海洋汚染防止法　：　有害液体物質 Y類物質
「エチレングリコールモノメチルエーテルアセタート」
大気汚染防止法　：　揮発性有機化合物（ＶＯＣ）（法第2条第4項）
「酢酸2-メトキシエチル」
有害大気汚染物質（中環審第９次答申の６２）
「酢酸２－メトキシエチル（別名：エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート）」
輸出貿易管理令　：　キャッチオール規制（別表第１の１６項）
HSコード：2915.39
第29類 有機化学品
・輸出統計番号（2025年1月版)：2915.39-000
「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
－酢酸のエステル：その他のもの」
・輸入統計番号（2025年1月1日版)：2915.39-990
「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体
－酢酸のエステル：その他のもの
－2 その他のもの：その他のもの」

16．その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献　：

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH	CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人　製品評価技術基盤機構)　HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター　HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。